

第5回神奈川県地方創生推進会議における意見

基本目標1 県内にしごとをつくり、安心して働けるようにする

中柱	NO	発言内容
(1) 未病産業	1	未病対策に取り組んでいるところに認定制度のようなものがあればよい。それによって、補助がある等の支援があれば、民間施設も具体的に動きやすくなるのではないか。
	2	健康寿命を延ばそうとしていくのなら、特区やMe-Byoタウンなどの拠点的な空間づくりと合わせて、日常的な空間（歩いたり話したりということが日常的に行われる空間）が重要であり、そのような空間づくりを県が促進していくべき。高齢者が歩くうえでは、バリアフリー、休憩のためのベンチ、トイレなどが必要となる。
(3) エネルギー産業	1	エネルギーの地産地消とあるが、ひとつのシステムのあり方として、地域でのコミュニティビジネスのようなものを組み込めないか。 (例)イギリスのコミュニティエネルギー：それぞれの地域で、最も効果的な再生可能エネルギーの組み合わせを決めていく。
(4) 観光産業	1	3つの特区以外にも特区による取組みを求めていくべきである。そのためには、もっとわかりやすい、相談しやすい県の窓口を明示しておくことがよい。ヘルケア局だと、健康に関することしか相談できないように見える。
(5) 産業創出・育成	1	P17の「労働生産性の向上」は稼ぐ力であり、地方創生のキーワードなので、＜主な取組み＞の「事業承継支援」の次あたりのところに記載してほしい。
	2	神奈川県は郊外地域といわれるベッドタウンが多い。専業主婦がいることを想定して作られているベッドタウンから専業主婦がいなくなると、そこから人がいなくなるのは当然。そのような場所では、新たに産業を興していかないと人がいなくなってしまう。
	3	柱Iについて、「民間の活用」という文言が入ってもよいのではないか。民間も含めて協力をしていくというようなキーワードが入ってくるとよい。
(6) 雇用の創出・就業の促進	1	情報システムを上手く活用し、民間と連携し、シェアオフィスを郊外地域につくることを検討できないか。空き家の活用にもつながる。
	2	KPIの実績値として92.5%あるものよりも、なかなか進まない「安心して働ける労働環境の整備」に「育児休暇取得率の設定」等のKPIを設定すべき。
	3	県内に中小企業は多いが、就職活動ということになると人手が足りないのに集められないというミスマッチがある。留学生が就職をするときでも、人材を求めている企業がどれだけあるのか、という情報が得にくい。そういった就職のミスマッチを県全体でなくしていく、という視点を入れてもらいたい。
	4	本気で神奈川モデルを世界に発信したいのであれば、特区で外国人の医療有資格者が働ける仕組みをつくるべき。実際、在住者で医者や看護師の有資格者は多い。

基本目標2 神奈川への新しいひとの流れをつくる

中柱	NO	発言内容
(1) 神奈川ライフの展開	1	「東京都への転出抑制」に対しては、県内産業の育成や高齢社会を乗り越えるしくみづくりが解決策として落とし込まれているという話だったが、定住人口にどうつながっていくのか、施策として弱く、イメージとしてつながっていない。定住したいと思わせる魅力をどこにもっていくか、というところがあまり記載されていない。もう少し具体的に「だったら神奈川に住もうかな」ということをどのポイントでアピールしていくのか、ということに記載する必要がある。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

中柱	NO	発言内容
(1) 結婚から育児までの切れ目ない支援	1	出生率を上げていくという意味でも、もう少し若者に対してのアプローチが必要ではないか。
	2	神奈川県は東京都に比べて保育園も入りやすく、子育てしやすいというアピールをもっとしてほしい。
(3) 働き方の改革	1	通勤をなくしてしまうということも必要ではないか。県内のサテライトオフィスで東京の仕事ができるという環境を整える、県に住んで子育てをして、東京の企業の仕事を神奈川に持ってきてしまうような、職住子育て近接の環境をつくることも考えていくべきである。

基本目標4 活力と魅力あふれるまちづくりを進める

中柱	NO	発言内容
(1) 健康長寿のまちづくり	1	高齢者のサポートをする人を支援する取組みがあればよい。(看護師の資格を取ると住宅ローン補助がある、保育園のサポートがある等)
(2) 持続可能な魅力あるまちづくり	1	三世代近居や子育て、コミュニティーの問題は、市町村などの単位でなく、小学校単位・町内会・自治会単位のレベルでどういったまちを目指すのかという視点を文言として入れてほしい。そうすると、身近な一般の人達が実感できるので、行動も変わってくるのではないか。
	2	三世代近居や子育て、コミュニティーの問題は、市町村などの単位でなく、小学校単位・町内会・自治会単位のレベルでどういったまちを目指すのかという視点を文言として入れてほしい。そうすると、身近な一般の人達が実感できるので、行動も変わってくるのではないか。
	3	観光資源を活かす、地域資源を活かす、という文言と併せて、「自然環境をどう保全していくか」ということ盛り込むべき。自然環境を保全していくことが地域資源に結びつき、観光資源となり、ひとつの産業として成り立っていく、というストーリーをつけて欲しい。
(3) 交通ネットワークの充実	1	「交通インフラの整備」と「周辺の都市開発」を加えるとよい。具体的には、既存路線を活用した特急や新駅構想など。(武蔵小杉は、かつて武蔵小杉駅を作ったことで、神奈川に住んで、東京に通うライフスタイルを定着させた)
	2	分科会で検討した際、高齢化社会ではバスが重要という話をした。そこは入れて欲しい。

総論

NO	発言内容
1	「未病」は抽象的すぎるため、「健康寿命日本一を目指す」というキーワードの方が分かりやすい。その方が、その打ち手としての「未病産業の育成」といったアプローチも具体的に考えられる。健康寿命の年齢を記載する等全面的に出す方が良い。
2	「未病を治す」とは、血管病変のアンチエイジングなのか、癌の早期発見なのか、体調不良なのか、健康補助なのか。全部網羅するなら、重篤な疾病と健康補助を分類分けして明示すべき。
3	社会増の対策で、「東京都への転出超過抑制」は、東京オリンピックまでという短期的な視線よりも、東京オリンピック後の中長期的な視点の方が重要なのではないかな。
4	社会増に向けた施策が「東京都への転出超過抑制」のみで、特区はあるが、雇用の促進も含めて、もう少し具体的な戦略を描いていくべきではないかな。
5	企業誘致も限界があるので、子育てや、週末過ごすなら神奈川、働くなら東京という割り切った発想も必要。
6	都会と田舎を併せ持つ良さを大事にするなら、産業の育成・誘致や交通ネットワークの利便性向上を進める際にも、田舎らしさの良さを失わないようにすることが重要。
7	(人口ビジョンについて) 各地域の分析 (P12以降) を見る限り、実態は分かるが、なぜ動いているのかという真因分析がない。可能であれば真因分析を行い、その真因を総合戦略の5年間でどう是正していくか、という段取りになるのがよいのではないかな。是正するがゆえに、社会減に歯止めをかける、というストーリーが描けると思う。
8	P40の「(2)市町村との連携」について、県のコーディネート、もしくは調整という記述があるとよい。「連携」というと対等という意味合いだが、「コーディネート・調整」だと、県がある意味リーダーシップを取って動いていく、ということが表現できる。
9	人口ビジョンの「克服すべき2つの課題」について、実際、2060年になっても人口減に歯止めはかからない。今の表現だと現実味に欠ける。「人口減少を直視する」「人口減少に対応する」といったほうがあっている。
10	克服すべき課題と3つのビジョンについて、わかりやす目標がビジョンとして掲げられるべき。より抽象的な課題があり、目標があり、ビジョンがあるほうが全体として見やすい。 もしくは、人口ビジョンの「克服すべき2つの課題」を、「克服すべき課題と将来像」とし、〈課題：人口減少を直視する〉〈将来像：超高齢化社会を乗り越えて安心した社会を構築する〉としたほうがわかりやすい。
11	第4章に、県内での横の連携といったことも記述して欲しい。全体として縦割り。政策間の連携が見えない。コミュニティの活性化、地域の新規ビジネスを起こす人材を育成する、地域に産業を興す、ということを手早く結び付けていくことが全体として効果的であり、政策として仕組みまではっきり見える。そういうものがあるといい。

第4章 推進体制など

No	発言内容
1	推進体制の中で県内（各部局間）での横の連携とか、そういったことも是非記述をしていただきたいなと思います。
2	P D C Aをしっかりと回してK P Iを達成するための手段を考えていく、これがP D C Aを回すということになると思うので、ここはしっかりと記載していただくのが完成形としてはいいと思います。